

科目	ゼミナールⅡ(S)	担当	長澤 省吾	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

ゼミナールⅠでは、指導者としての基礎理論を中心に学び、実践してきた。本ゼミでは、全体像を意識しながら、個別指導や全習法・分習法、階段式・はしご式を取り入れ、さらに気質の高い指導者としての実践を身に付けることを第一の目標とする。

また、卒業論文に向けて測定項目の意義と計画書の立案を作成することを第二の目標とする。

【履修注意】

積極的に授業に参加し、気質の高い指導者になれるよう訓練する。

授業時間外の準備が多くなる。

全出席すること。

【評価方法】

原則として、欠席回数(含公欠)は3回までとする(遅刻・早退・見学は0.5回とみなす)。

出席点40% プレゼン30% 貢献度30%で総合評価する。

【試験について】

指導者実践の評価とレポート作成を行う。

再試験対象者の条件：行わない。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。本科目は2単位科目なので90分の講義に対して90分以上の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

購入教科書なし、資料を配布する。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの進め方について
2	指導者基礎理論のおさらい	指導者の基礎編について
3	指導者としての実践の方法	担当日を決め、対象者をグループ分け
4	指導者実践の応用Ⅰ	数グループに分け、それぞれ担当者1名を配置して行う
5	指導者実践の応用Ⅱ	種目の特性をしっかりと学ばせる
6	指導者実践の応用Ⅲ	設定時間の厳守
7	指導者実践の応用Ⅳ	授業全体の流れのスムーズさ
8	指導者実践の応用Ⅴ	対象者とのコミュニケーション
9	指導者実践の応用Ⅵ	対象者の設定レベルに合わせた指導方法
10	指導者実践の応用Ⅶ	与えられた環境での最大限の効果について
11	指導者実践の応用Ⅷ	これまでの指導者実践の総決算
12	卒業論文に向けて1	測定方法を確立し、予備的な測定を行う
13	卒業論文に向けて2	測定方法を確立し、予備的な測定を行う
14	卒業論文に向けて3	テーマとタイトルを決める
15	まとめ	ゼミナールⅡにおける指導者実践を通じてのレポート作成
16	卒業論文タイトル発表	「タイトル」の決定と「測定方法」提出